



文・写真
山本 長春
やまもと ひさはる

(難波田城資料館
市民学芸員)

第1回 家康がびん沼川を渡った?

NHK大河ドラマ「豊臣兄弟!」を見ますか? 松下洸平さん演じる徳川家康が登場し、物語を盛り上げていくようです。

実はこの家康が、びん沼川を渡ったという伝承があります。新連載では南畑の自然や歴史、文化財を巡っていきましょう。

昼間ノ渡シ火祭り

さて、筆者は昨年11月3日、家康ゆかりの「昼間ノ渡シ火祭り」に参加しました。

びん沼川を挟む、さいたま市西区飯田新田。

「昼間ノ渡シ場」が伝承され、保存会が2007年復活させ、毎年この祭りを開いているのです。

夕闇にかがり火がたかれ、たいまつがともされます。舞台では地元住民が踊りや囃子などを披露。「家康主従」に扮した一行が、上陸してくると祭りは最高潮に。

江戸末期の幕府編纂の地誌『新編武蔵風土記稿』第一五四巻の「渡津書(注・風の旧字間渡)」の項にこうあります。

「昔天正中東照宮(注・家康のこと)河越より岩槻に渡御あらんとて夜中比渡津に臨ませ玉ひしとき(中略)、村民等川上に篝をたき、松明をとほして迎へ奉りけるに、さながら白晝に異ならざりければ…」

家康は、天正18年(1590)、秀吉によつて関東移封を命じられます。

この渡河は領国統治中の出来事でした。村人総出の行為に感激した家康。今後、「昼間渡」と呼ぶように命じ、渡し守に土地を与え、「昼間」の姓を名乗らせたといわれています。

対岸は東大久保に

正面对岸は富士見市東大久保(旧大久保村)です。家康一行はそこから渡河したかも。

びん沼川は荒川大改修(大正)昭和初期でできた旧流路です。家康が渡河したのはその前の旧入間川でした。

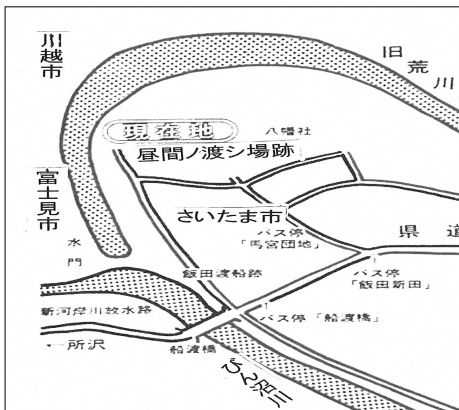
保存会によると、家康は2度この地を訪れています。なんと飯田新田に「昼間」という姓が今も残っています。



火祭りで上陸してきた「家康一行」



昼間ノ渡シ場跡



渡シ場の周辺図

【参考】『さいたま百選』など。

題字：平塚嘉代子編集委員